

筋炎関連間質性肺疾患に関する臨床データの研究利用に関するお願い

多発性筋炎もしくは皮膚筋炎は、筋症状や皮膚症状を特徴とする膠原病のひとつですが、多くの症例で間質性肺疾患を合併し、肺病変の有無が生命予後を左右するとされています。筋炎に関連した間質性肺疾患のなかには、急激な経過をとり、種々の治療にもかかわらず生命にかかわるものもあります。

しかし、筋炎に関連した間質性肺疾患のなかで、どのような症例が予後不良であるのか、診断時に判断することは容易ではありません。私たちは京都大学呼吸器内科、免疫・膠原病内科と共同で、2005年1月から2011年6月の期間に、当院呼吸器内科および総合診療教育部で新たに診断した筋炎関連間質性肺炎の患者さんの臨床データ（喫煙、血液データ、呼吸機能検査、実施された治療内容、転帰など）を収集分析し、この疾患の予後因子を解明することを目指しています。

これらの臨床データは通常の診療で記録されたもので、患者さんに新たな負担はありません。また、個人を特定できるような状態でデータを使用することはありません。本研究の目的と、臨床データ利用に関する御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、本研究に関するさらなる説明を御希望の方、また、本研究に於いて臨床データの利用を希望されない方は下記問い合わせ窓口にご連絡下さい。

お問い合わせ先

天理よろづ相談所病院呼吸器内科 田口善夫
電話:0743-63-5611 (代)、FAX 0743-63-1530 (代)